

はじめに

「誇る文豪田山花袋」と上毛かるたにうたわれた田山花袋は、明治四年に館林に生まれました。昭和五年に五十八歳で亡くなるまで、花袋は詩や小説、紀行文、随筆、和歌、漢詩など、数多くの作品を残しました。その中でも最も有名なのが『蒲団』と『田舎教師』で、現在でも多くの人々に読み継がれています。

この「田山花袋作品集」は、子供のころから花袋の作品を読んでいたために、小学生向けの作品「梅雨のころ」「路の話」「金魚」の三編を取り上げ、編集しました。

この作品集を通して、花袋のふるさとへの思いや、花袋を育てた館林の自然や風土を知っていただくとともに、郷土の文豪・田山花袋の作品にいつそう親しんでいただくことを希望します。

梅^つ雨^ゆのころ



目次

梅 ^つ 雨 ^ゆ のころ	はじめに
路 ^{みち} の話	1
金魚	11
田山花袋	21
作品について	33
	35

